

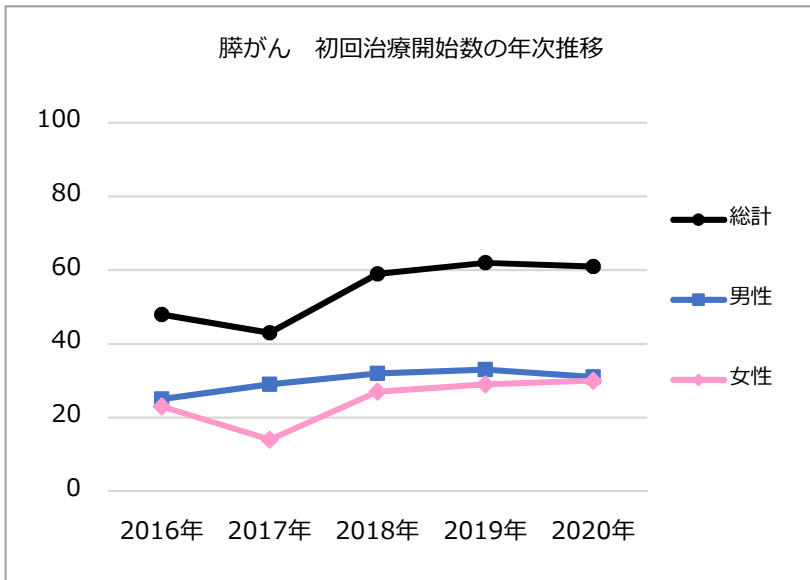


「院内がん登録」からわかる

君津中央病院のがん診療 ～2020年 膵がん～

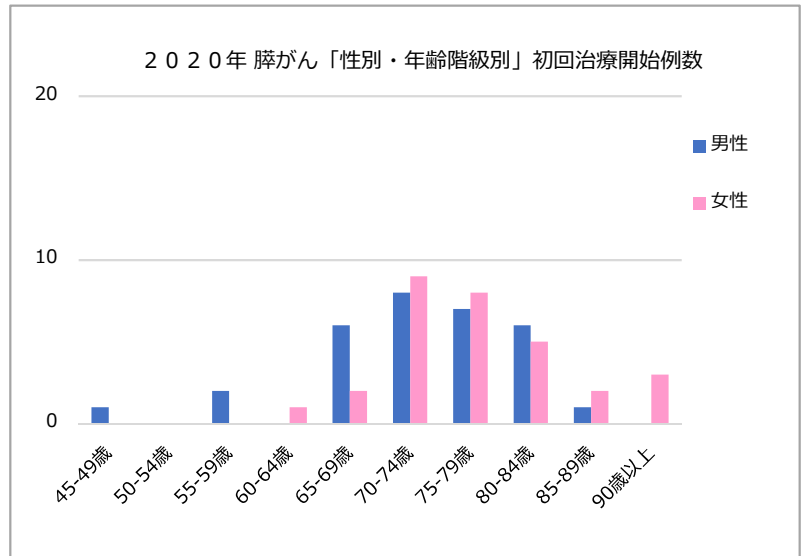
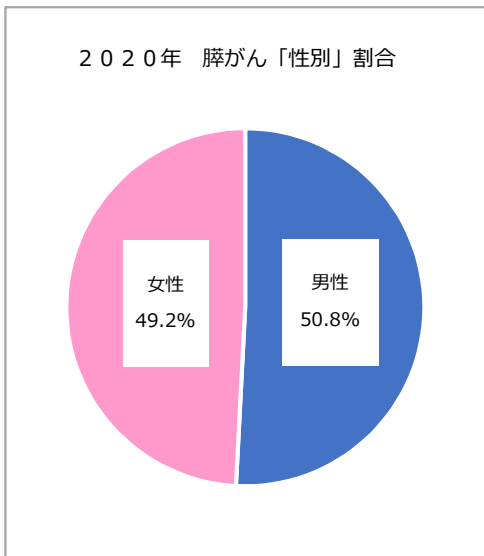
当院は、お住いの地域によって提供されるがん医療の質の差をなくすことを目的として地域ごとに設置されている「地域がん診療連携拠点病院」です。「地域がん診療連携拠点病院」の指定には、様々な要件が定められており、「院内がん登録」の実施もその一つです。「院内がん登録」は、施設が持つがん診療の機能を明らかにしてその情報を分析することにより、質の高いがん診療の体制づくりに役立てられることを目的に、実施されています。この「院内がん登録」のデータを基に、当院の2020年の膵がん診療の実態をお伝えします。

膵がん 初回治療開始数の年次推移



左のグラフは、膵がんで当院で初回治療を開始する方の数を示したものです。膵がんは診断と治療が非常に難しいがんですが、罹患数は増加傾向にあります。

2020年 膵がん 「性別・年齢階級別」 初回治療開始例



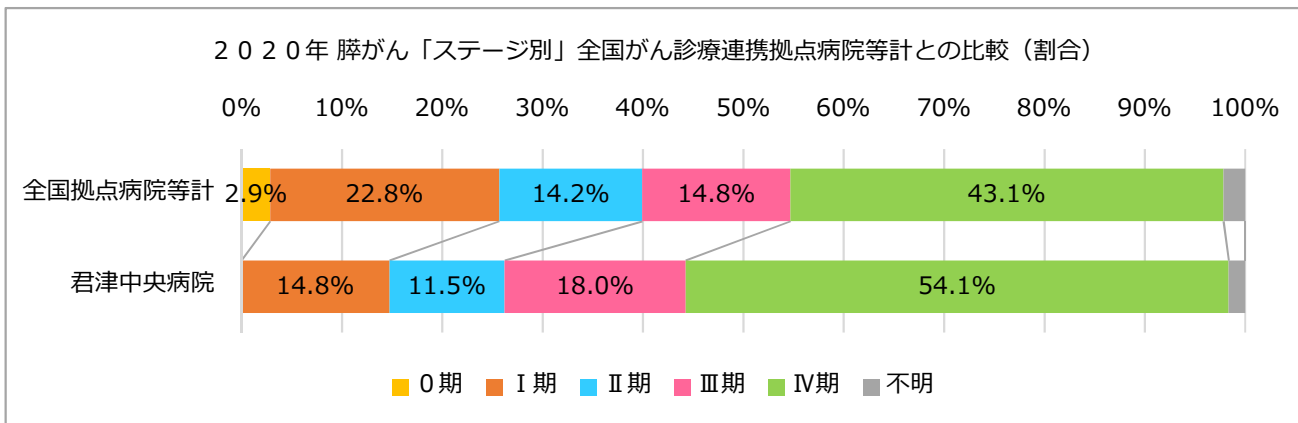
上のグラフは、当院の膵がんの性別割合です。ほぼ男女比が同じです。

上のグラフは、当院の膵がんの方の年齢を示したものです。当院の平均年齢は、全体で75.3歳（男性72.8歳、女性77.9歳）です。

<がんのステージについて>

がんの進行の程度は、「ステージ（病期）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。膵がんは、進行するにつれて0期からIV期に分類されます。院内がん登録は、UICC TNM分類という国際分類及び院内がん登録のルールに従い集計しています。よって、日本で一般的に用いられている「取扱い規約分類」と異なる場合があります。また、本資料では、がんの治療開始時におけるもっとも確からしいステージである、「臨床ステージ（治療前の臨床診断）」に「術後病理学的ステージ（手術結果による診断）」を加味した、「総合ステージ」を用いています。

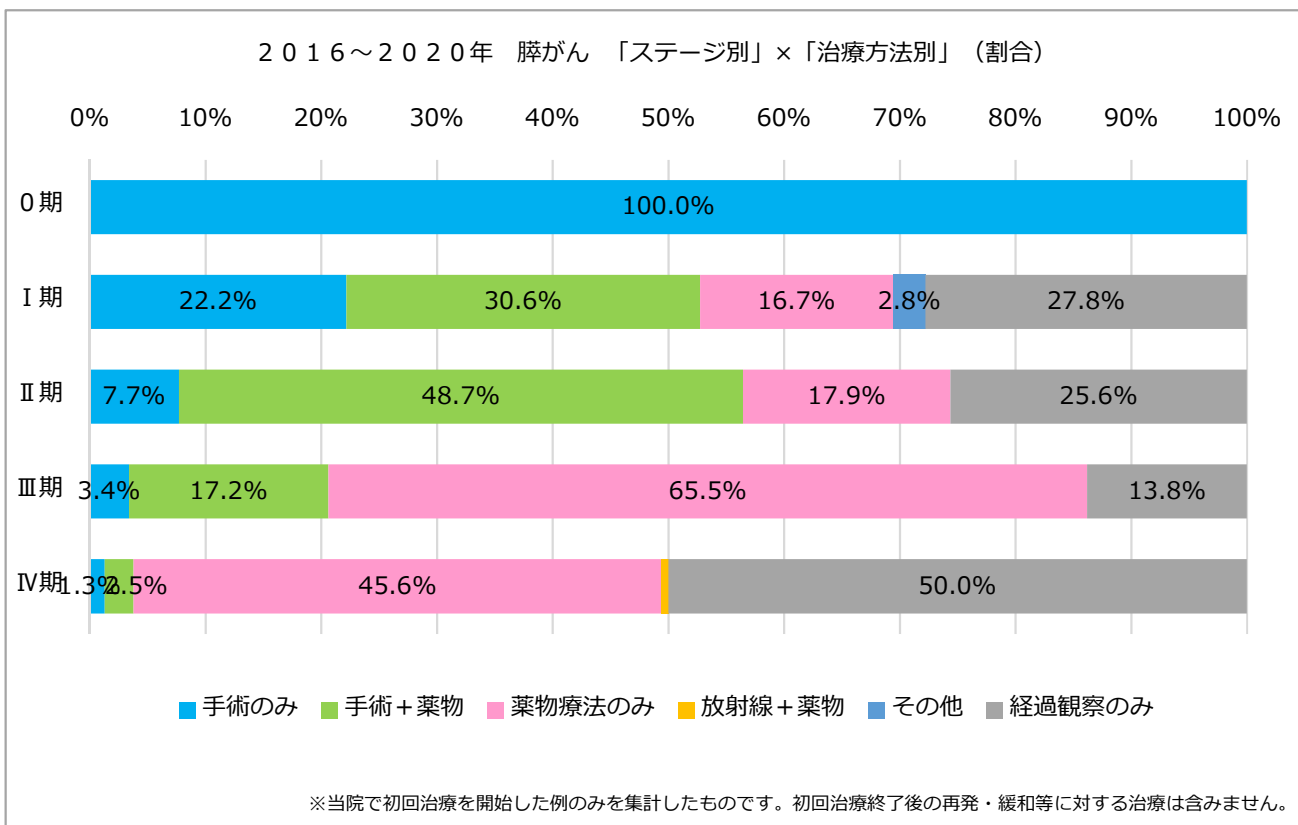
2020年 膵がん「ステージ別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



上のグラフは、膵がんの初回治療開始時点でのステージを示したものです。膵がんは他のがんと比較して病期が進行した状態で受診される方の割合が大きいです。

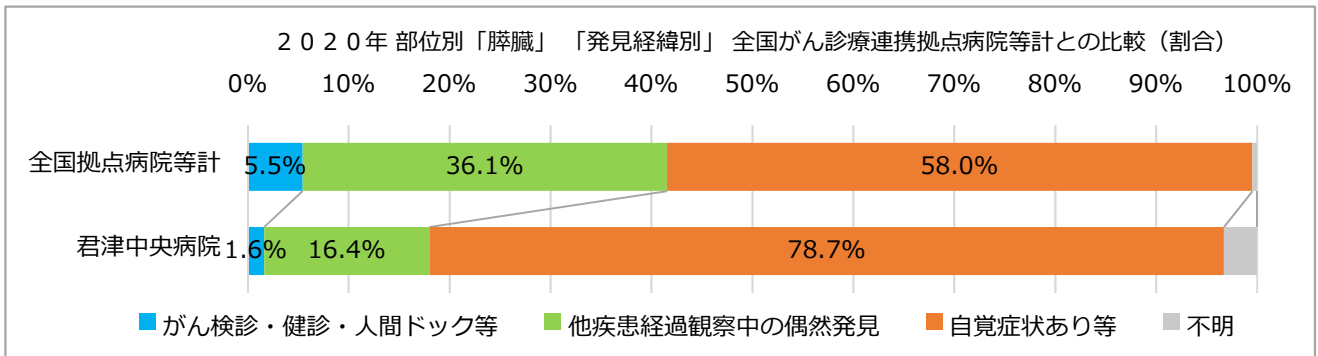
2016～2020年 膵がん「ステージ別」×「治療方法別」（割合）

※症例数が少ないため、2016～2020年の累計値を用いています。



膵がんの治療には、手術、薬物療法などがあります。治療法は、がんの進行の程度、全身状態、年齢、患者さまの希望などを考慮して決めていきます。

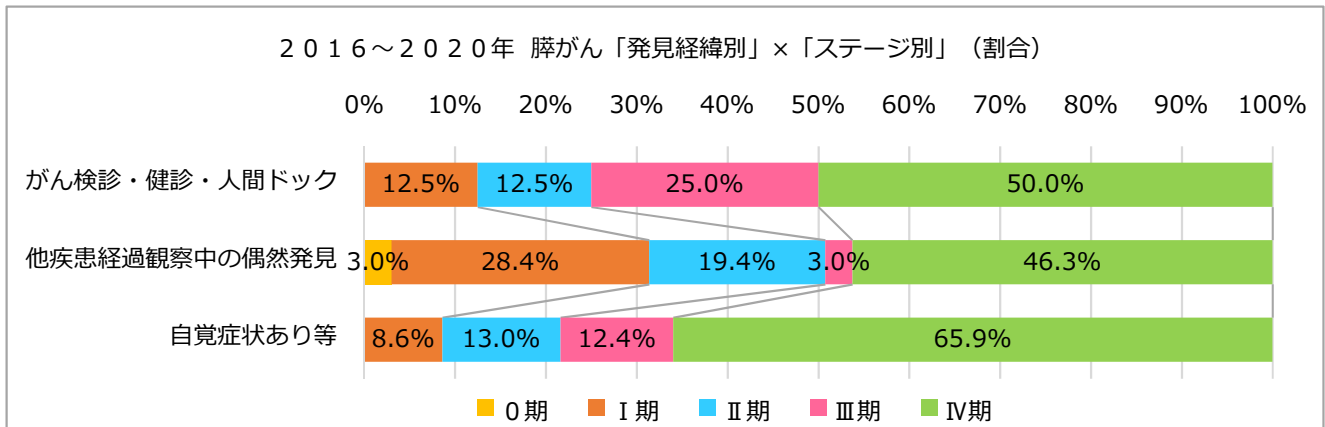
2020年 部位別「膵臓」 「発見経緯別」 全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



上のグラフは、膵臓に発生した腫瘍が、がんと診断されるきっかけを示したものです。当院では、自覚症状があつて受診する方の割合が約8割と全国拠点病院等計と比べると大きいです。

2016～2020年 膵がん「発見経緯別」×「ステージ別」 （割合）

※症例数が少ないため、2016～2020年の累計値を用いています。



上のグラフは、膵がんの初回治療開始時点でのステージを示したものです。膵がんは、がんが発生しても症状が出にくく、膵臓は胃の後ろに位置しているため腹部超音波検査でも全体を観察することが困難なため、早期発見することが難しいがんのひとつです。膵がんの症状は、腹痛、背部痛、黄疸、食欲不振、体重減少等があり、また、糖尿病がある場合は血糖のコントロールが悪くなることもあります。他の病気でも起こるような症状がほとんどのため発見が遅くなることが多いです。このような症状が現れた場合には、医療機関を受診するようにしてください。当院を受診する際には、かかりつけ医の紹介状や検査結果をお持ちくださいますようお願いいたします。